



バッハの森通信

第 117 号
2012 年
10 月 20 日発行

財団法人筑波バッハの森文化財団

〒300-2635 茨城県つくば市東光台2-7-9

http://www.bach.or.jp

☎ 029-847-8696 / Fax 029-847-8699

e-mail: info@bach.or.jp

郵便振替 00380-4-16119 (財)筑波バッハの森文化財団

楽しんで命を燃やす音楽

「ユーブング」の勧め

本当に暑い夏でしたが、皆様、元気にお過ごしでしたか。嬉しいことにバッハの森は大変元気でした。これまで7月～8月は完全にお休みにする慣わしでしたが、今年は7月に「夏期・教会音楽ワークショップ」、8月に「夏休みの音楽会」を開き、どちらも盛会でした。

「夏休みの音楽会」については、レポート欄で報告します。

「ワークショップ」を取って夏に開いたのは、数人の若いオルガニストの皆さんから特に申し込みがあったからです。そこで、コラール「留まってください、私たちの許に」に基づく、バッハのカンタータ (BWV 6) とオルガン曲 (BWV 649) をテーマに開いたところ、20数名の参加者があり、皆で歌詞を学び、歌を歌い、代わる代わるオルガンを弾く、大変楽しい集いになりました。

* * *

このワークショップで、27年前の創立以来、いろいろと名称を変えては続けてきたプログラムに、新しい名称をつけました。名付けて「ユーブング」。音楽用語としては、「練習曲」と訳されるドイツ語ですが、より広い意味を籠め、この余り知られていない言葉を敢えて選びました。バッハの森の活動目的を、最もよく表現する言葉であることが分かったからです。

手許の中辞典で「Übung (ユーブング)」をひくと、「練習、訓練、演習」それに「修行」などの訳語が並んでいます。要するに、何であれ繰り返し実行することによって身につける行為を指しますが、それが技術的なことに限らず、精神的・宗教的な事柄に及ぶ広い用法に着目したのです。

創立以来、バッハの森がしてきたいろいろな活動中、現在まで一貫して続けている活動に、合唱とオルガンとハンドベル、それに「コラールと

カンタータ」というプログラムがあります。今回「ユーブング」と名付けたのは、このプログラムです。

* * *

「コラール」は、16世紀の宗教改革者ルターが、礼拝に集まる会衆全員が歌える歌として、ドイツ語で作詞作曲した讃美歌です。その後200年間に多数のコラールが生まれ、ドイツ民衆の魂の歌になりました。これを素材に、教会の礼拝のためにバッハが作曲した音楽が「カンタータ」で、約200曲、伝えられています。

カンタータは、通常、器楽の伴奏を伴う独唱と合唱から構成された20分から30分の組曲で、どれも素晴らしい音楽ですが、その演奏は決して易くありません。それでもバッハの森では、カンタータを学び、その合唱曲を歌うことを、創立以来ずっと活動の中心にしてきました。カンタータに、バッハの音楽が総合され、凝縮されているからです。

しかし、カンタータを全曲演奏するためには、プロの音楽家の応援が必要です。そこで、創立後しばらくの間は、コンサートを開くたびに、私たちは合唱曲を準備し、独唱者、管楽器・弦楽器の演奏者などを「雇って」カンタータの全曲演奏をしました。しかし、途中からプロを雇うのは止めました。プロの音楽家と私たちは違う目的でカンタータを演奏していることが分かったからです。

当然、プロの音楽家の目的は「演奏すること」です。しかし、バッハの森でカンタータを学ぶ私たちの目的は、カンタータを「理解し」「練習する」ことによって思いを高め、感動し、楽しんで命を燃やすこと、敢えて言えば「修行」すること、まさに「ユーブング」なのです。

それに、カンタータの素材となった「コラール」はドイツ民衆の魂の歌でした。と言うことは、アマチュアが熱い思いを籠めて歌う歌であって、プロの演奏では表現できない歌なのです。このような目的をもって「コラール」を歌い、「カンタータ」を学ぶバッハの森に、あなたも参加なさいませんか。本当に面白いですよ。

(石田友雄)

聴いて、歌って、踊って、振った 「夏休みの音楽会」

去る8月25日に、バッハの森で「夏休みの音楽会」が開かれました。副題は「来て、見て、聴いて、触ってみよう」。これまでバッハの森を訪れたことのない方々に、気軽に親子連れで来ていただき、バッハの森にあるさまざまな珍しい楽器の音を楽しみ、その説明と演奏を通して、バッハの森を知っていただくという企画です。

まず奏楽堂で、チェンバロ、クラヴィコード、パイプオルガンという3つの鍵盤楽器を紹介しました。皆さんになじみのあるピアノと形や演奏法は似ているのに、それぞれ全く違う原理で音を出すので、それぞれ違う音色になることを説明すると、大変興味を示してくださいました。それから、チェンバロとクラヴィコードを鴨川華子さん、オルガンを海東敏恵さんが弾きました。「フランス組曲」や「トッカータ 二短調」など、皆さんがよく知っているバッハの名曲の生の演奏に、小さい子も含め、熱心に聴き入っていました。

「メヌエット」と「きらきら星」

次に「メヌエット」のステップを実際に踊ってみる体験をしてもらいました。私が簡単にステップの手ほどきをしてから、バッハの有名な「メヌエット」のチェンバロ伴奏に合わせて、大人と子ども合わせて約50人の皆さんが奏楽堂一杯に広がり、二重の輪になって踊りました。「メヌエット」が舞曲であることはピアノの先生から習っていても、踊るのは初めてのようで、始めは一寸戸惑っていましたが、すぐお姫様気分になって楽しんでる女の子たちもいました。

それから「きらきら星」をオルガン伴奏で斉唱しました。大人も子どもも大きな声で心を合わせて歌う様子は、思わず胸が熱くなってしまいました。いつも歌声が響くバッハの森を、新しい形で感じる事ができたからです。

歌った後は、同じ「きらきら星」をハンドベルで演奏する体験をしてもらいました。希望者を募ると元気な子どもたちが手を挙げて出てきました。6人1組の子どもたちが、1人1音を受け持ってメロディーを鳴らすと、バッハの森ハンドベル・クワイアの皆さんが伴奏して合奏になりました。当然、最初はうまく音が出なかったり、自分

の番を忘れてりする子もいましたが、あっという間にコツをつかんでちゃんと演奏ができたので、大きな拍手をいただきました。締めくくりは、私たちハンドベル・クワイアが「メヌエット」を演奏しました。鍵盤楽器とは違うおもむきと、ハンドベルならではのアンサンブルを味わっていただけたのではないかと思います。

味わえたバッハの森の素晴らしさ

最後はセミナーホールに移って、イタリア・オルガンの紹介をしました。200数十年前にイタリアで建造された本当の古楽器で、こういうオルガンは恐らく日本に1台しかないと聞いています。奏楽堂のパイプオルガンは、演奏者がリュックポジションの後ろにいますので弾くところが見えませんが、ここではオルガンのまわりに集まって弾くところはもちろん、2本のひもを手でひっぱってふいごを動かし、風を送ってパイプが鳴ることまで分かるので、子どもはもちろん大人まで興味津々でした。鴨川さんがイタリア・オルガンで奏でた「イタリア協奏曲」は、夏の午後の雰囲気合ってとても心地よく、「夏休みの音楽会」の締めくくりにはふさわしい音楽でした。

バッハの森でこのような「音楽会」を開くのは初めてでしたが、企画から宣伝、プログラム作成と会場作りまで、主にハンドベル・クワイアとオルガン・クラヴィコード教室の皆さんが参加して準備をし、大勢の方々をお迎えして、楽しい有意義な学びを共にし、バッハの森の素晴らしさを味わうことができる催しになりました。私は司会の大役をいただきましたが、皆様のご協力で本当に楽しく終わることができたことを感謝しております。これからも、バッハの森で皆様とご一緒に楽しい学びを深めていきたいと願っています。

(岩淵倫子)



メヌエットのステップを学ぶ

ダンスを楽しみ、歌声に感動

夏の終わり、まだ暑さが厳しい8月の終わりに、珍しい楽器をテーマに、バッハの森で開かれた「夏休みの音楽会」は、大勢の皆さんが集まって楽しい会になりました。司会は「ぶっちゃん」こと岩淵倫子さん。元気な中学の音楽の先生です。今日はいつもと少々違ってずっと一本緊張の糸が通った素敵なお姉さんです。赤ちゃんから小・中学生までの子どもと大人が半々約50人が奏楽堂を埋め、「何が始まるのかな」と好奇心を高めているところを、岩淵さんがさわやかにすくい上げてスタートしました。

幕開けは、バッハの森にある珍しい楽器の一つ、チェンバロの紹介でした。ピアノのように弦を打つのではなく、はじいて音を出すという説明があり、鴨川華子さんの演奏が始まると、それまでひそひそおしゃべりしていた小さな子どもたちも途端に静まりかえり、典雅な調べに一心に聴き入っていました。

次にクラヴィコード。舞台の奥に置いてあるため見えにくかったのでしょうか。後ろの席にいた幼稚園児くらいの男の子がたたっと席の前に移動し、食い入るように説明を聞いていました。そしてクラヴィコードのかすかな音が流れてくると、会場の人たちは体中を耳にし、吐息や衣擦れの音もさせないほど音に集中しています。素朴で澄んだ音が奏楽堂をいっぱい満たした瞬間でした。

バッハの森の珍しい楽器と言えば、何と言っても奏楽堂正面に堂々と鎮座するパイプオルガンです。岩淵さんが「パイプは全部で何本あるかな」と聞かけると、子どもたちが「100本」「いや200本」などと答えた後で、「正解は1206本」と聞かされてびっくりしたり、パイプに風を送って音を出す仕組み、どんな音があるか実際に音を出してもらって聴いたり、去年の震災で壊れたけれど復活した話などもあってから、有名なバッハの「トッカータ 二短調」を海東敏恵さんが演奏しました。

楽しかったのはダンスです。みんなが協力してベンチを両側に片付け、奏楽堂はダンスホールに早変わり。まずメヌエットのステップを岩淵さんに教えてもらいました。50人で会場いっぱい一つの輪になって踊るのには少々狭かったのですが、チェンバロの優雅な調べに合わせて、大人も子どもも「1、2、3、1、2、3」とステップを踏んで舞いました。ぎこちなく懸命に進む男の子もいれば、

お姫様のように軽く頭を傾げて踊る女の子もいる楽しい一時でした。

ここでまたベンチを戻し、今度はオルガンを背に座ってもらい、奏楽堂の後ろに並べたハンドベルの説明と演奏、それに体験演奏をしました。先ず海東さんのオルガン伴奏で「きらきら星」を声を合わせ、みんなで歌いましたが、シンプルな旋律がこんなに生き生きとした音楽になるのかと、感動がこみ上げました。

楽器との出会いがあったことを願って

それから、バッハの森ハンドベル・クワイアの模範演奏がありました。目の前できらきら光る大小さまざまなベルが奏でる音楽を聴いてもらった後で、「やりたい人」と聞かけると、会場のあちこちから「はい」「はい」と子どもたちの手が挙がりました。6人で1組作り、1人1つのベルを与えて鳴らすための振り方を教えると、「きらきら星」の即席演奏が始まりました。お父さん、お母さんは一斉に写真を撮っていましたが、自分の子どもがベルを振っている方は、どきどきしていただいでしょう。たまに音が出なかったり、突然たくましい音が響いたり、多少でこぼこしましたが、何とも味わい深い演奏でした。終わると盛大な拍手があり、満足そうな子どもたちの笑顔が印象的でした。

最後に会場をセミナーホールに移して、イタリア・オルガンの見学と演奏がありました。このような盛りだくさんの会でしたが、特に子どもたちにとって、これまで聴いたことも見たこともない楽器との出会いは、心に残るものだったのではないのでしょうか。この「音楽会」が、昔の人が時間をかけて紡いできた音楽の感動を、皆さんがそれぞれ心の中で育てるきっかけになれば、こんなに嬉しいことはないと思っています。

(別所香苗)



チェンバロの演奏を聴く

7. 8～9.26 夏期休館
 7.12,26 運営委員会 各参加者4名。
 7.14 事務打ち合わせ 神谷隆行氏 (TOMA コンサルタンツ)、バッハの森より3名。
 7.26 訪問 三村慶司氏 (有・シンエー社長)
 7.27～28 夏期・教会音楽ワークショップ
 参加者14名 (27日)、21名 (28日)。
 8. 2 事務打ち合わせ 神谷隆行氏 (TOMA コンサルタンツ)、バッハの森より2名。
 8.12 訪問 唐橋文氏 (中央大学文学部教授)、田澤恵子氏 (古代オリエント博物館研究員)。
 8.19 訪問 廣澤眞信氏 (公財・高松宮妃癌研究基金常務理事)、同夫人、池田真理子氏、同子息、息女。
 8.23 運営委員会 参加者4名。
 8.25 夏休みの音楽会 参加者26名 (大人)、12名 (子ども)、7名 (幼児)、バッハの森より13名。
 8.30 事務打ち合わせ 神谷隆行氏 (TOMA コンサルタンツ)、バッハの森より2名。
 8.31 訪問 高野温子氏 (オルガニスト)、パブロ・マルクエズ・カラバッコ氏 (オルガニスト)。
 9. 8 大掃除 参加者8名。
 9.13,20,27 運営委員会 参加者4名、4名、5名。
 9.15～16 秋期・教会音楽ワークショップ
 参加者19名 (15日)、17名 (16日)。
 9.27 開講 秋のシーズン
 9.28 訪問 ピーター・クラシンスキー氏 (オルガニスト)。
 10. 4,11 運営委員会 各参加者4名。

J. S. バッハの音楽鑑賞シリーズ

コラール・カンタータ研究
 コラールとカンタータ (JSB)

- 9.29 三位一体後第6主日のためのカンタータ「救いは私たちにあちらから来た」(BWV 9)；コラール「われらに來たれる救いは恵み」。オルガン：J. S. バッハ「たとえ神がのぞんでおられないような心配がしても」(BWV 9 / 7)、海東敏恵。参加者10名。
 10. 6 第343回、オルガン：J. S. バッハ「救いは私たちにあちらから来た」(BWV 638)、海東敏恵。参加者9名。
 10.13 三位一体後第10主日のためのカンタータ「私たちより取り去ってください、主よ、誠なる神よ」(BWV 101)；コラール「取り除きたまえ」。オルガン：J. S. バッハ「あなたの右手で私たちを導き」(BWV 101 / 7)、當眞容子。参加者9名。

学習コース

- バッハの森・クワイア (混声合唱) 9.29 / 10名、10.6 / 10名、10.13 / 9名。
 バッハの森・ハンドベル・クワイア 9.29 / 5名、10.6 / 5名、10.13 / 5名。
 バッハの森・ハンドベル・リンガーズ 9.27 / 3名、10.4 / 3名、10.11 / 3名。
 コラール研究会 9.28 / 7名、10.12 / 4名。
 オルガン音楽研究会 9.28 / 8名、10.12 / 6名。
 クラヴィコード・オルガン教室 9.28 / 5名、10.12 / 3名。
 オルガン・クラブ 10.5 / 2名。
 入門講座：聖書を読む 9.28 / 5名、10.6 / 5名、10.13 / 4名。
 レチタティーヴォを歌う 9.29 / 5名、10.6 / 5名、10.13 / 3名。
 オルガン、クラヴィコード練習 7.3 / 2名、7.4 / 1名、7.5 / 1名、7.6 / 2名、7.10 / 1名、7.11 / 2名、7.12 / 2名、7.13 / 1名、7.17 / 1名、7.18 / 2名、7.18 / 1名、7.19 / 2名、7.20 / 4名、7.21 / 1名、7.24 / 3名、7.25 / 3名、7.26 / 1名、7.27 / 4名、7.28 / 3名、7.31 / 2名、8.2 / 1名、8.3 / 1名、8.4 / 1名、8.21 / 2名、8.22 / 2名、8.23 / 3名、8.24 / 3名、8.28 / 2名、8.30 / 2名、8.31 / 2名、9.1 / 1名、9.4 / 3名、9.5 / 1名、9.6 / 1名、9.7 / 2名、9.8 / 1名、9.11 / 2名、9.12 / 1名、9.13 / 1名、9.14 / 4名、9.18 / 1名、9.19 / 4名、9.20 / 2名、9.21 / 1名、9.25 / 2名、9.26 / 1名、9.27 / 3名、9.28 / 1名、9.29 / 2名、10.2 / 2名、10.3 / 2名、10.4 / 2名、10.5 / 2名、10.6 / 1名、10.9 / 1名、10.10 / 3名、10.11 / 2名、10.12 / 2名、10.13 / 1名。

寄付者芳名 (敬称略日付順) (2012.5.20 - 8.30)

下記の方々から計191,950円のご寄付をいただきました。

比留間恵、徐淑子、戸部将一・慶子、募金箱

建物維持積立寄付 (敬称略日付順) (2012.6.19 - 9.29)

下記の方々から計112,650円のご寄付をいただきました。